

山岸 彌平氏

昭和17年生まれ。昭和40年大阪電気通信大学卒業。平成11年ナンカイ工業(株)代表取締役社長、平成26年より現職。平成16年一般社団法人日本繊維機械協会理事、平成17年公益社団法人大阪府工業協会理事、令和元年泉佐野商工会議所副会頭などを歴任。平成30年旭日単光章受章。



人と人とのつながりを大切に 創業者の遺訓を胸に社会へ貢献

泉佐野納税協会 会長

ナンカイ工業株式会社 代表取締役会長

やまぎし やへい
山岸 彌平氏

②の原点は3年間のアメリカ生活

——会長の趣味を教えてください。

友達をたくさんつくること、人と会って何かするのがとにかく好きです。今の生きがいは麻雀。麻雀仲間には小学校時代からの親友もいますし、人からの紹介で新しい仲間と打つこともあり、付き合いが広がっています。

人とのつながりこそ一番大事なものだと思っています。つながりをつくるには、やはりこちらから人の輪に積極的に飛び込むことが大事ですね。その際、相手から何かを得てやろうとか、そういった邪な心を持ってはいけません。真っ白な気持ちで付き合い合うことで友達は増えていくのだと思います。

——とても社会的でいらっしゃいますね。

私のこの性格は、大学卒業後3年間のアメリカ生活で培われたものだと思っています。会社の先代社長である義兄から「とにかくアメリ

カに行ってこい」と言われまして。昭和40年頃は海外渡航が珍しかった時代ですが、取引先の伝手を使って取り計らってくれたのです。

貨物船に乗り17日かけてロサンゼルスに着いた後は、行先も目的も完全にノープラン。ひとまず船旅で知り合った台湾からの留学生と行動をともにし、彼のアパートに1週間泊めてもらいました。そこからバスで大陸を横断し、ニューヨークへ。とにかくお金がなかったので、泊まった安宿で隣部屋の方々にご馳走になるなど、あちこちで大変お世話になったのを覚えています。誘われたらどこへでもついていくという、良いような悪いような癖もここでつきました(笑)。

ニューヨークは意外と日本語にあふれていてアメリカらしさをあまり感じられなかったので、今度はミネソタへ行ってみることに。

ナンカイ工業株式会社

創 業 大正9年
設 立 昭和35年
事業内容 繊維機器、建築資材の製造販売
拠 点 本社（大阪府泉佐野市）、
貝塚工場、関東工場、東北工場、
山口工場、北陸工場、ナンカイ滋賀

そこではしばらく病院内にある教会のお世話になり、皿洗いや読書をして過ごしました。その後、ウィスコンシン州立大学へ入学できることになり、学生寮での生活が始まりました。それまでは日本語が通じる機会もありま

したが、学生寮ではそうもいかず、英語力が鍛えられました。

こうした3年間のアメリカ生活が性格をずいぶん外交的にしたと今でも思います。

背 伸びすることなく地道に歩む

——会長の座右の銘を教えてください。

「和顔愛語」です。穏やかで優しい心を忘れずに周囲に接していくという禅の言葉です。この言葉は社内に掲げており、大切な心構えとしています。また当社の創業者が亡くなる直前に、枕元に書き残した言葉があります。

「敵なきものは滅ぶ 大きな人間は大きな敵をつくれ 無敵は自滅の始りなり 職人は大きくなる事を願ってはいけない 現在の製品をより良くする事 これが成功の元なり」

業界の中に競争相手がいることが必要である。そして、中小企業は背伸びしてはいけない。今携わっている仕事をより良くすることが、新しい取組につながっていくのだと教えてくれています。経営に携わる者として、心に刻んでいます。

ナンカイ工業は繊維機械の製品開発に始まり、その技術と経験を生かして建築資材の開発にも着手し、今では全国に供給しています。当社ではSDG'sにも早くから取り組むなど、社会貢献活動を大事にしてきました。コロナ禍の時には医療従事者の支援を、最近子ども食堂の支援団体への支援などを行っています。東日本大震災の時には、当社の東北工場

も被災したこともあり、迅速に支援しなければと市役所に直接何が必要かを聞き出して救援物資をトラックで現地へ運びました。こうした取組を続けながら、おかげさまで当社は創業100年を超え、今も創業者の思いを引き継ぎ地道に歩んでいます。

——では最後に、納税協会の会長としての思いをお聞かせください。

泉佐野納税協会の活動もまた、社会貢献活動として取り組ませていただいています。協会主催の講演会の講師として、当社とご縁のある比叡山の大阿闍梨をお呼びしたこともあります。大阿闍梨は、比叡山の山内を7年間に渡り千日間歩いて礼拝し、生命の限界まで挑むという千日回峰を達成された数少ない方ですので、講演においても、私たちの日常とはひと味違った奥深い話をしてくださいました。こうした貴重なお話を聞く機会を持つこと、また異業種のいろいろな方と交流できることも、納税協会の良いところだと思います。

今後も納税協会としての活動に尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

——本日はありがとうございました。